

■創刊 ちよつといい話 2話

言葉で伝える“今日の一言”

当店のお弁当にはいつも「メニュー表」を付けています。

そのメニュー表には“その日の献立”と“ちよつとした私の一言”を添えており、この“今日の一言”が意外と好評で、毎日楽しみにしてくれている人もいたりします。

お弁当をお届けする全員に喜んでいただこうと、毎日“その日の献立”と“ちよつとした私の一言”を印刷して全員分のお弁当に添えていくのが私の日課です

もちろんいつもお届けしているYさんのお弁当にもそれらが添えられています。

Yさんは目が見えません。

盲目生活は長いようで、見ても特に危なげ様子もなく、家の中を歩き回るのには慣れたものといった感じで、いつも玄関までササッと出てきて、お弁当を受け取ってくれます。

子どもと離れ離れて暮らし、目も見えなくなったYさんは、音楽を聴くことと食べる事が楽しみだと話してもくれました。

ある日ふと思いました。

「“今日の一言”が好評だけど、Yさんは読めていないのか…ということはYさんは今日の献立もわからずに、食べているんだ！」

私たちからすると、目隠しの状態でご飯を食べるようなものです。

「今日はどんなおかずなのか、好きなものは入っているのか。嫌いなものは…」
それもわからずに食べて頂くのは、とても申し訳なく思いました。

まずできることは、「今日の弁当が何なのかを伝えることだ」と思い、次の日から配達のときに献立を伝えるようにしました。

「今日はアジの梅煮、小松菜のおひたし、さつま芋の煮しめ、それと一夜漬けが入っていますよ。しっかり食べてくださいね」
そう伝えるとYさんはにっこりと笑顔で「ありがとうございます」と答えてくれます。

みなさんに大好評の“今日の一言”も一番最初にお会いする玄関で読み上げることにしました。

「紅葉も散りはじめて、朝晩は冷えてきましたね。体調管理に気をつけましょう」「私事ですが、今日は僕の32歳の誕生日です。プレゼントはないでしょうね…」「もうすぐクリスマスです。子どもたちはサンタさんへの手紙を書いていましたよ！」

時事ネタや私の子どもの話まで幅広い内容ですが、時間にすれば20秒にも満たないといった2~3行の“今日の一言”をYさんはいつも笑顔で聞いてくれます。

特に子どもの話には敏感で、自分の子育てを思い出すそうです。

